

シニア合唱団員のネット環境

『おんがく広場』第57号でお知らせした「合唱団員(60歳以上)向けインターネット環境に関するアンケート」の最終結果ができました。

このアンケートは歌手・合唱指揮者の佐藤 拓さんが実施したものです。アンケートの目的は「シニア世代のインターネットや通信環境の現状を把握し、コロナ禍においても有効なコミュニケーション方法としてオンラインツールの可能性・不可能性を模索すること」です。

□ アンケート概要 □

実施期間：5月27日～6月20日。設問：10問+自由回答欄。回答者数：828件。目標の1000件には届きませんでしたが、短期間で多くの方が参加されました。それだけ関心が高いということです。

回答者を地域別にみると、関東(除東京)31%、東京27%、中国・四国18%、関西12%で関東圏が大半を占めています。年齢層は60代61%、70代33%、80代5%と、60代が圧倒的に多く、世間一般の状況を反映しているようです。スマホ・タブレットは95%が所有、「LINE」の利用率も87%に達しています。

ネット中心でのアンケートなので回答者はネット親和性が強い人に偏っているものの、一定の傾向はみられると思われます。詳細は「佐藤 拓 official web site」をご覧ください。

<https://contakus.com/choir/2020/07/post-560/>

□ 気軽に相談できる人はいるか？ □

設問「身近にパソコンやインターネットに詳しい人はいますか？」では、はい：58%、いいえ：25%、近くではないが電話で聞くことができる人がいる：17%となっており、周囲に気軽に相談できる人がいるかどうか、これは結構重要なポイントです。わからないときにすぐ解決しないと、それが壁となって先へ進まなくなってしまうからです。

佐藤拓さんはこの点について「実際に私の合唱団で Zoom を使ったミーティングを始めた際も、Zoom の導入に関して私が電話でガイダンスをし、何とか利用を始められるようになった方が複数いらっしゃいました。コンピュータやインターネットに、言いがかりのない恐怖、というか警戒心をお持ちの方は、近くでサポートしてくれる人がいるのといないのとでは大きな違いです。」と述べています。

□ 家庭で大きな声でうたえるか？ □

自由回答にさまざまな思いが現れていて大変興味深いものです。オンラインの合唱練習については、次のような意見が出されています。

- ・隣の人の声を聴いてようやく歌っているような初心者は一人で歌うのは難しい
- ・家庭で声が出せる環境にない
- ・オンラインで音声データを集めただけのものは合唱ではない
- ・どういう形であっても合唱団の存続を願う
- ・クラスター発生は事実として認めねばならないが、本当に合唱活動で感染拡大するのか？ はっきりさせて欲しい
- ・団員の8割が60歳以上なので命の危険を考えると(活動中止は)やはりやむを得ない

また、自由回答を受けてアンケート実施後に気付いた項目として、佐藤さんは「家で声出しできる環境にありますか？」という質問を設けるべきだったとしています。確かに一般の家庭では近隣や家族のことがあって大きな声は出しにくいものです。オンラインの練習や演奏をするには、インターネット環境などの問題の前に、住居環境が大きな壁として見逃せないかも知れません。

年末の第九も次々中止！

コロナ禍が収まらない状況の中、各地でベートーヴェンの「第九」が中止に追い込まれています。

- ◆1985年に始まった『第九ひろしま』は、一般公募合唱団が歌うもので、終楽章“練習番号M”では聴衆も合唱に加わるという聴衆参加型です。以前は「8000人の大合唱」と副題が付いていましたが、今では外されています。通常8月頃から練習が始まりますが、コロナ禍の終息が見通せず、12月の公演を中止するという苦渋の判断となりました。
- ◆埼玉を代表する埼玉第九合唱団も同じく中止となりました。こちらは1973年結成。160名ほどの団員を擁し、年二回公演を続けており、年末に「第九」、夏には別のオケ付きの曲を演奏する常設の合唱団です。一つの合唱団における「第九」演奏記録としては全国的に例がないものと思います。

大規模な合唱団ほど練習会場の確保や運営に支障を来たし、活動がままならないのが現状です。せめて2021年には心置きなく「歓喜の歌」を歌える日常が戻ることを祈るのみです。